

FIG 2026 年大会の概要

1. 主催者

国際測量者連盟 (FIG)、南アフリカ地理情報学協会 (South African Geomatics Institute)。

2. 会場

ケープタウン国際コンベンションセンター (Cape Town International Convention Centre : CTICC)、南アフリカ

3. 会期

2026 年 5 月 24 日～29 日

FIG 総会 : 5 月 24 日及び 29 日

開会式及び閉会式 : 5 月 25 日及び 29 日

本会議 : 4 月 25 日～28 日

会期の初日及び最終日に総会が開催され、第 2 日から第 5 日までの 4 日間にわたって基調講演、各種技術プログラムが開催されたほか、同じ期間中に定期会合として分科会会議、会員協会フォーラム、会長会議等が開催された。

プレイベント : 5 月 23 日～24 日 (ヤング・サーベイヤーズ・ネットワーク会合、実務者のための基準座標系セミナーなど)

今会合は、4 年に 1 回開催される大会 Congress であり、毎年の作業週間 Working Week よりも会期が 1 日長い。

4. 今会合のテーマ

全体テーマ : 「私たちが望む未来 - SDGs とその先へ」

⇐前回 (オーストラリア) の「協力、革新、強靱性 : デジタル世代の支援」や前々回 (ガーナ) の「あなた方の世界、私たちの世界 : すべての人のための強靱な環境と持続可能な資源管理」のようなメッセージ性の強いテーマではなかった。

5. 参加者

87 か国 1400 人超の参加があった。2025 年 (オーストラリア) 85 か国 1400 人をやや上回り、2024 年 (ガーナ) 83 か国 900 人、2023 年 (アメリカ) 85 か国 1000 人から大きく増加した。日本からは村上真幸会長兼総幹事のほか、石井健太幹事、岡田謙吾幹事の計 3 名が参加したほか、大会集録には、宮原伐折羅幹事が共著者として掲載されている。

6. 総会

正会員 104 団体（88 か国）のうち、56 団体（初日）および 57 団体（最終日）が出席し、成立した。

6.1. 次期会長、副会長選挙

選挙の結果、会長、副会長は次の方々に決定した（任期：2027-2030）。ただし、副会長のうち Peter Ache は、会長に当選し副会長を任期途中で辞することとなった Michalis Kalogiannakis の後任副会長として 2 年の任期を務める。

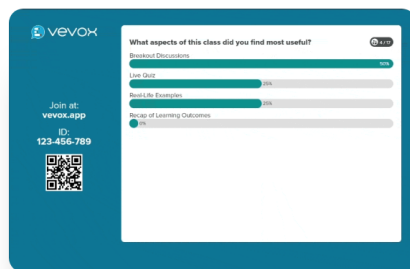
会長候補演説で Kalogiannakis が Vevox を使ったことが強い印象を与えたのであろう。



Real-time Polling

Create and launch AI-assisted polls in seconds for your classes and training sessions. Engaging and interacting with participants has never been smarter. Whatever the topic or scenario, our vast range of options including multiple choice, image-based, numeric, and dynamic word clouds, help you craft the perfect poll effortlessly!

[Learn more >](#)



会長：Michalis Kalogiannakis（ギリシア）（任期：2027-2030）

副会長（4 名）：（着任順）

Qin Yan（中国）（2025-2028）

Peter Ache（ドイツ）（2027-2028）

Winnie Shiu（香港）（2027-2030）

Stephen Djaba（ガーナ）（2027-2030）

6.2. 新規加盟団体

正会員：Chamber of Property Surveyors, Belgium、Colegio de Ingenieros Agrimensores Bolivia の 2 団体

準会員：Surveyor Generals Department – Eswatini Government, Survey of Pakistan, Cayman Islands Government, Department of Lands & Survey の 3 団体

6.3. 除名されたまたは退会した協会

正会員：Geospatial Council of Australia（昨年の FIG 作業週間主催団体で、会議後に破産）、Afghan Surveyors Association, Nigerian Institution of Estate Surveyors and Valuers の 3 団体

6.4. Dumashie 会長からこの 1 年間の活動報告

昨年の活動について、会長から報告。国際連合及びその傘下の機関並びに世界銀行との協力関係や各国・各地域の測量関連政府機関・職業団体との連携など。

6.5. 2025 年度会計決算の承認と 2026－2029 年度の予算の承認

2020～23 年度は連続して赤字決算であったが、2024 年度は利子、投資利益の増加と事務局員 1 名の退職により単年度黒字に転じた。2025 年度は作業週間主催者のオーストラリア地理空間協議会が会合終了後に破産手続きに入り、作業週間で得た収益を負債の返済に充てたため、FIG は収益を得られなかった。結果、当該年度は 22,697 ユーロの赤字となった。

2026～29 年度予算については、2026 年度以降に毎年会費を値上げすることが 2024 年に決定されており、期間中の総計で黒字を計上できる見込みである。

6.6. 会費の値上げ

2024 年度の総会で 2026 年度から会費の値上げが決定 (€4.80/人 から €5.20/人) しており、2025 年度の総会で今後のインフレに対応するために年 2% の上昇に相当する €0.10 /人の増分を 2027 年度会費に適用して €5.30/人に値上げすることを決定している。

なお、JFS の負担増分は 2026 年度に 20000 円以上、以降毎年 5000 円以上となるが、それに加えて円安の影響も受ける見込みである (€1≒160 円 (今年 4 月) ⇒185 円 (今年 6 月))。

6.7. FIG 基金

FIG 基金は今年で設立 25 周年を迎えた。昨年 2025 年には 3 名に FIG 作業週間への参加を助成した。また、ヤング・サーベイヤーの各地域の会合への参加に対しても支援した。

6.8. 分科会等報告

10 の分科会、3 つのネットワーク及び 4 つのタスクフォースからこの 1 年間の活動報告があった。全分科会が LinkedIn にページを開設、会員にフォローを奨励している。

また、次期分科会長は昨年の総会で既に決定しているが、今総会で 2027 年からの分科会長として正式に指名された。

6.9. FIG 大会 2030 の開催立候補国紹介

中国 (青島市) とスペイン (セビリア市) の 2 か国が立候補し、それぞれ開催地の紹介を行った。中国は招致活動として会期初日に各国代表を総領事館に招いてパーティを開催した。電子投票の結果、中国が 2030 年の開催国として選ばれた。

7. 正会員協会フォーラム

正会員協会の会長、代表者のフォーラム。前年の各班に分かれて議論して報告するというワークショップ形式ではなく、出席者全員が FIG の課題、今大会の課題について提起、議論するという形式で進められた。村上からは、自身が参加したポスターセッションについて、来訪者と議論の時間が十分とれるというプラス面があるものの、パネルの配置場所が悪いために来訪者がほとんどないマイナス面があるので改善が必要との意見を述べた。FIG の課題としては収入をどう得るかという議論がなされており、企業会員の増加によ

る増収のほか、加盟協会の申告している会員数が適切なのか（正直に申告すればもっと多いのではないか、という言外の示唆？）、という発言もあった。

8. 会長会議

組織の持続可能性 sustainability が継続的なテーマ。FIG のメンバーであることで各国の協会や組織にどのような利益がもたらされるか、それにより増収につながられるか、について前年から引き続き同じテーマで議論された。FIG に人を引き付け、収入を増やし、持続可能な組織とすることを目標としている。今年 2 月にオンライン会議が開催され、その続きで対面開催、今年 10 月に再度オンライン会議が予定されている。

9. 全体会議（基調講演）

全体会議は、毎日午前中に計 4 回行われた。各日 4～5 人のプレゼンターが次のテーマで講演を行った。

- 9.1. 未来を形作る：強靱性のある実践を推進するために持続可能な政策を提唱する戦略的リーダーシップ
- 9.2. 気候変動に対して強靱な未来の実現：土地統治における構築環境(built environment)と海洋環境の連携、および人と土地の関係
- 9.3. 連携したデジタル未来の構築：地理、データ、テクノロジーの交差点におけるイノベーション
- 9.4. パートナーシップと知見による成果の実現：共通の目的のもとで包括的な取り組みの推進

10. 技術プログラム

「土地管理と統治」は全体を通じて重要なテーマとして取り上げられていた。また、気候変動への耐性は横断的なテーマとして各分野で発表されていた。今大会で FIG として初めての試みでポスターセッションが設けられた。

また、今大会では「測量者のための倫理原則とモデル行動規範」のセッションが開催され、その案が報告された。これは 1998 年に制定されたものの全面改訂版であり、加盟会員に対して意見募集がかけられている。

11. 治安、交通

街並みは近代的で非常にきれいなため、一見、治安が悪いようには見えないが、実際はよくなく、夜間の外出では徒歩は避け、移動には Uber を使うのがよいらしい。Uber は運転手の審査が厳しくタクシーよりも信頼できるらしい。大会参加者の一人がバス停でスマホを見ていたところ、スマホをひったくられたという話を聞いた。歓迎レセプションと送別レセプションが会場内で催されたのは治安の悪さも理由かもしれない。